安全データシート

作成日　1996年 4月18日
SDS No.1021-41505　　改訂日　2014年 9月30日 1/5頁

1　化学品及び会社情報

化学品の名称	：m-キシレン
会社名	：ジーエルサイエンス株式会社
住所	：東京都新宿区西新宿6-22-1　新宿スクエアタワー30F
電話番号	：03-5323-6611
FAX番号	：03-5323-6622
製品コード	：1021-41505
緊急連絡先	：ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
整理番号(SDS No.)	：1021-41505
推奨用途及び使用上の制限	：試験・研究用

2　危険有害性の要約

GHS分類

：引火性液体	： 区分3
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	： 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	： 区分2A
生殖毒性	： 区分2
特定標的臓器毒性(単回暴露)	： 区分3(麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	： 区分1(神経系)
吸引性呼吸器有害性	： 区分1
水生環境有害性(急性)	： 区分2

GHSラベル要素 ：

注意喚起語 ：危険

危険有害性情報 ：引火性液体及び蒸気
皮膚刺激
強い眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
眠気又はめまいのおそれ
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
水生生物に毒性

注意書き

［安全対策］ ：使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、火花、裸火のような着火源から遠ざけること。－禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地するまたはアースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
火花を発生しない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋、保護眼鏡などを着用すること。

［応急措置］ ：気分が悪いときは医師に連絡すること。
飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚又は髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
暴露又は暴露の懸念ある場合：医師の診断又は手当てを受けること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断又は手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断又は手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

［保管］：涼しいところに置くこと。換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

［廃棄］：内容物、容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分外。

3　組成及び成分情報

化学名	：m-キシレン
別名	：1,3-ジメチルベンゼン、m-キシロール
濃度又は濃度範囲(含有量)	：99.0%以上
化学特性(化学式)	：$C_6H_4(CH_3)_2$
分子量	：106.16
官報公示整理番号	：3-3
CAS No.	：108-38-3
危険有害成分	：m-キシレン

4　応急処置

吸入した場合：新鮮な空気の場所に移し、安静保温に努める。
症状が回復しない場合は、直ちに医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合：多量の水で石鹸を用いて洗う。炎症を生じた時は医師の手当を受ける。

眼に入った場合：直ちに多量の水で15分以上洗い流す。異常があれば医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合：吐かせないこと。直ちに医師の手当てを受ける。水で口の中を洗わせてもよい。

暴露した場合：医師の診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状
：高濃度暴露により、頭痛、披露、錯乱状態、一時的な気分の高揚、昏睡、吐き気、胃腸障害、意識喪失、肺障害、肝障害、腎障害、脳障害、目、鼻、喉への刺激性、神経障害及び死亡がみられている。

5　火災時の措置

消火剤：粉末、泡、炭酸ガス、乾燥砂、水噴霧(棒状注水厳禁)

使ってはならない消火剤：棒状放水、水噴霧

火災時の特有危険有害性：火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。

特有の消火方法：火元の燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。

消火を行う者の保護：消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6　漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
：付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項：漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

回収・中和：火気厳禁とし、適当な保護具を着用してできるだけに回収する。こぼしたところを完全に掃き取った後、大量の水を用いて洗い流す。

7　取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	：火気厳禁とし、高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。 機器類は防爆構造をとし、設備は静電気対策を実施する。 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
安全取扱注意事項	：容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。 使用後は容器を密閉する。 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する 作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。
衛生対策	：取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではならない。 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。

保管

適切な保管条件	：容器は直射日光を避け、乾燥した場所に貯蔵し、密閉して空気との接触を避ける。
技術的対策	：保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。 換気の良い場所で容器を密閉し保管する。 火気厳禁 施錠して保管すること。
混触禁止物質	：強酸化性物質、火源の近くに保管しない。
安全な容器包装材料	：ガラス

8　暴露防止及び保護措置

設備対策	：屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
管理濃度 作業環境評価基準	：50ppm

許容濃度

日本産業衛生学会	：50ppm(217mg/m^3)
ACGIH TLV(s)	：TWA 100ppm STEL 150ppm
OSHA PEL	：TWA 100ppm STEL 150ppm

保護具

呼吸器の保護具	：有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器
手の保護具	：保護手袋
眼の保護具	：保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	：保護衣、保護長靴

9　物理的及び化学的性質

形状	：液体
色	：無色澄明
臭い	：特異臭
pH	：データなし
融点	：-47.4℃
沸点	：139.3℃
引火点	：27℃(密閉式)
爆発範囲	：1.1～7.0vol%(空気中)
蒸気圧	：0.8kPa(20℃)
蒸気密度(空気=1)	：3.7
比重	：0.87(15/4℃)
溶解性	：エタノールに溶けやすく、水にほとんど溶けない。
n－オクタノール／水分配係数log Po/w	：3.20
自然発火温度	：527℃
分解温度	：データなし

１０　安定性及び反応性

安定性	：安定
危険有害反応可能性	：強酸化剤と接触すると発火の危険性がある。
避けるべき条件	：日光、熱、裸火、高い温度、スパーク、静電気、その他発火源
危険有害な分解生成物	：一酸化炭素

１１　有害性情報

急性毒性	：経口 ラット LD50 5,011mg/kg
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	：皮膚刺激－ウサギ 20mg/24時間 中程度 ウサギを用いた皮膚刺激性試験結果の記述から「皮膚刺激性がある」と考えられる(CERIハザードデータ集96-30②(1997),CERI･NITE有害性評価書 No.62(2004))
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	：眼刺激－ウサギ 5mg/24時間 重度 (キシレン) ウサギを用いた眼刺激性試験結果の記述から「中等度(moderate)刺激性」があると考えられる(CERIハザードデータ集96-30②(1997),CERI･NITE有害性評価書 No.62(2004))
発がん性	
IARC	：グループ3(ヒトに対する発がん性については分類できない)
ACGIH	：A4(発がん分類できない)
生殖毒性	：母動物に一般毒性を示す用量で胎児死亡が見られている(CERI･NITE有害性評価書 No.62(2004))
特定標的臓器毒性(単回暴露)	：ヒトについては「平衡感覚の減少」等の記述(DFGOT vol.15(1993))、動物実験については「姿勢の変化、覚醒や立ち上がりの現象、取扱の易化、歩行障害、行動障害、正向反射障害、前肢握力の減少、協調運動失調、着地点開脚幅
特定標的臓器毒性(反復暴露)	：ヒトについては「反応時間の低下、平衡感覚の低下」、実験動物については「強調運動失調」等の記述がある。(CERI･NITE有害性評価書 No.62(2004))
吸引性呼吸器有害性	：「誤嚥により化学性肺炎を起こす危険がある。」との記載がある。(ICSC(J)(2002)) また炭化水素であり、動粘性率は0.676 mm2/s(25℃)(CERI計算値)である。

１２　環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性	
藻類	：セレナストラム EC50=4.9mg/L/72hr(環境省生態影響試験、1996)
魚類	：ニジマス LC50: 8.4mg/L/96hr(CHRIP)
甲殻類	：ベイシュリンプ LC50: 3.2mg/L/96hr(CHRIP)
残留性/分解性	：良分解性 分解度：100 % by BOD(経産省既存化学物質安全性点検)
生態蓄積性	：急速分解性があり、生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=3.2(PHYSPROP Database,2005))(m-体)

１３　廃棄上の注意

残余廃棄物	：廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 上記方法による処理ができない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	：空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

１４　輸送上の注意

国連番号	：1307
品名	：キシレン類
国連分類	：クラス 3 (引火性液体)
容器等級	：Ⅲ
注意事項	：運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み, 荷くずれの防止を確実におこなう。
海洋汚染物質	：非該当

１５　適用法令

毒物劇物取締法	：劇物 政令第2条第1項第22号の3
労働安全衛生法	：法第57条令第18条 名称等を表示すべき有害物 No.7-2 令別表第一の４ 引火性の物 No.4 令別表第六の二 有機溶媒 No.11 法第57条の2 令第18条の2 名称等を通知すべき有害物 別表第9 No.136 有機溶剤中毒予防規則 第二種有機溶剤等

	作業環境測定基準 第十三条の2 No.5、作業環境評価基準 別表No.45
化学物質管理促進法	：第一種指定化学物質No.80
化審法	：優先評価、既存物質 No.125
消防法	：危険物第４類 第2石油類(非水溶性)危険等級3
船舶安全法(危規則)	：引火性液体
航空法	：引火性液体
海洋汚染防止法	：施行令別表第1 有害液体物質 Y類物質 No.112
水質汚濁防止法	：令第3条の3 指定物質 No.28
大気汚染防止法	：有害大気汚染物質 No.43
悪臭防止法	：令第一条 特定悪臭物質 No.18

１６　その他の情報

引用文献等

化学品安全管理データブック、化学工業日報社
14102の化学商品、化学工業日報社（2002）
独立行政法人　製品評価技術基盤機構　化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
有害性評価書 ver.11 No.62（新エネルギー･産業技術総合開発機構）
航空危険物規則書　第52版邦訳　等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。